

2022年4月からカンボジアにあるプノンペン日本人学校に派遣されている佐藤由記です。大湊高校では2年間担任、1年間進路指導部で、教科は英語を教えていました。そんな私の一日とプノンペンでの生活について紹介したいと思います。

プノンペン日本人学校の日

6:40～ 通勤

プノンペンは中心部の交通渋滞がひどいため、朝早く出発します。交通手段はトゥクトゥクという三輪自動車で、アプリを使って呼びます。事前に目的地を指定し、料金も事前に表示されるため安心です。バイクがとても多いのと、日本ではなかなか見ない光景に出くわすこと多く、毎日ドキドキです。

7:10 学校到着

渋滞がひどくなければ 30 分ほどで学校に到着します。ほとんどの児童・生徒はスクールバスで登校しています。バスが到着するまでその日の準備をします。

7:50～15:00 朝の会、朝タイム、授業

7:50 からの朝の会では日本の学校と同じように出欠確認をしたり、その日の連絡をしたりします。その後、8:00-8:15に朝タイムという時間があり、曜日によってすることが異なります。木曜日にはクメール語講座があり、現地の大学の日本人学科の生徒を講師としてクメール語（カンボジアで話されている言語）の勉強をします。

授業では日本の小・中学校で使用されている教科書を使用します。1学年1クラスで5～10人と生徒数が少ないので一人一人に合わせた授業ができます。ディスカッションなどのインタラクティブな授業スタイルも多いです。英語の授業では私とフィリピン人の ALT の 2 人体制でオールイングリッシュの授業を行っています。日本人学校では入学式・卒業式や授業参観、運動会、修学旅行など、日本の学校と同様の行事も行われています。

一つの校舎で小学生と中学生が学んでいるため、中休みや昼休みには小学生と中学生と一緒に遊んだりしています。これも日本人学校ならではです。

15:00 生徒下校

児童・生徒を送り出した後は会議などがあります。



プノンペン日本人学校は先ほども書いたように、1つの校舎で小・中学生合わせて約70人が勉強しています。保護者の仕事の関係で小さいことから様々な国を転々としていたり、保護者の海外転勤で初めて海外に出てきたり、カンボジアと日本のミックスでまだ日本には住んだことがなかったりと、様々なバックグラウンドを持つ生徒がたくさんいます。将来的には日本で進学をする生徒が多いため、私が担任をしていた中学3年生は、ほとんどの生徒が日本の高校を受験するために年明けから一時帰国し、卒業式間際にプノンペンに戻ってきます。

左手前の小豆色の建物は運動場です。雨季の日中には気温が38℃まで上がることも珍しくありませんが、児童・生徒は屋根のある運動場で毎日元気に走り回ることができています。右手前にあるのは図書館です。絵本から文庫本まで、カンボジアでは貴重な日本語の本がたくさんあります。手前の木はマンゴーの木で、2月下旬から3月上旬に収穫します。校地内にはバナナの木もあり、収穫すると生徒に配ります。

番外編 ～プノンペンでの生活～

皆さんはカンボジアというとどんな環境を思い浮かべるでしょうか？私は中学の芸術鑑賞で見たカンボジアの地雷に関する演劇の印象が強く、まだ地雷が埋まっているのではないか、水は飲めるのか、食べものは口に合うのか？など、赴任してくる前は不安がありました。しかし、私が住んでいるのは首都の中心部ということはもちろんありますが、日本のODA（政府開発援助）により、様々なインフラが整っていて、想像以上に住みやすいのです。カンボジアのために働いている日本人の方が数多くいらっしゃいます。

日中の気温は雨季の日中は常に暑く、生まれも育ちも青森の私にはつらいこともあります。室内はクーラーが効いているので、場所によっては寒いくらいです。

プノンペン市内には大きなイオンモールが3つもあるおかげで、日本で買うよりももちろん高いですが、日本にいるのと同じような健康的な食生活を送ることができています。青森県の定番買い物おやつである「いのち」や「ポロショコラ」、サンモールワイナリーのシードルが売っていたりすることもあります。私が食べるお米はもちろん「青天の霹靂」です。ローカルの屋台などで食べてみたいと思うこともありますが、衛生環境が整っていないところが多く、現地の人たちもお腹を壊すことがあるそうです。

私が来てからの2年間でも、高層ビルの建設がどんどん進んでいたり、新しい国際空港の建設が進んだり、日々進化を続けているカンボジア。みなさんもぜひ足を運んでみてください。

